

トップメッセージ

サステナビリティ経営の推進は、社員も会社も成長するための大きな挑戦だと考えています。

代表取締役社長 / CEO

岡部 鉄也



Message

安心・安全の提供を基本理念として

この度、シーシーアイグループとして初めてとなるサステナビリティレポートを発行するにあたって、私よりご挨拶申し上げます。1949年の創業以来、当社グループはつねに安心・安全の提供を基本理念として、エンジンクーラント（冷却液）、ブレーキフルード（ブレーキ液）などを中心とするカーケミカル事業や防音材、制振材等の開発・製造に携わってきました。それは、何よりも自動車事故を減らしたいという強い信念に基づいたものでした。今日までの成長を支えてきたのは、社会や自動車メーカーの要請に応え、高い技術力に基づいたソリューションの提供、そして品質管理能力という私たちの強みにあると考えています。さらに、企業理念「Change Create Innovate 21世紀の豊かな環境の創造 技術的成果の知的活用」に掲げるように、つねに世の中に新しい価値を届けることを愚直にやり続けること、また単に高度な技術力を追求するだけではなく、顧客第一（Customer Focus）の開発を志向してきたことこそが、私たちの成長の礎になっていると考えています。

企業の担うべき社会的責任を深く認識する

この安心・安全をもっとも重視する理念のもと、私たちはサステナビリティ経営を事業の根幹に据えることとしました。現在の社会情勢・市場環境を見渡すと、気候変動やDX・IT化の急進、コロナ禍の拡大、世界情勢の変化などに加え、とりわけ100年に一度と言われる自動車業界の大変革が私たちの事業環境に大きな影響を与えています。電気自動車（EV）や自動運転など新たな技術革新が推し進められ、異業種からの参入も相まって、かつてない変革期に直面しています。私たちはこれらの変革を新たなチャンスと捉え、さらなる事業拡大に努めていく考えです。一方、このような大きな変動期にあって、私たちは非上場企業ですがサステナビリティ経営を根幹に据え、ESGに基づく目標を設定しました。これは、お客様や社員、さらには企業の担うべき社会的責任を深く認識するとともに、企業に対してもサステナビリティこそが評価の対象となる時代であるとの考えに基づくものです。この取り組みこそが私自身だけでなく、社員も会社も成長するための大きな挑戦だと考えています。

既存の姿に捉われない新たな価値の創出に努める

今後、私たちが目指す2050年の姿として、「人々の豊かな暮らしの実現」、「世の中にない新たな価値の創造」、「持続可能な社会への貢献」を掲げ、7つの重要課題に取り組んでいきます。既存の姿に捉われず新たな価値の創出に努めていく企業を、私たちのあるべき姿と認識し、2030年を目標とするESGのKPI※に基づいた全社による取り組みを進めていきます。KPIについては、事業部のKPIと個人は連動するものという考えのもと、社員個人にも設定しています。例えば、製造工程におけるロスを何%に抑制するかを定め、継続的な改善に努めることで、結果として全社の廃棄物削減を実現する。このようにESGの考え方、施策を社員レベルまで落とし込み、根気よく説明していくこと、またお互いに勉強していくことも私たちの挑戦のひとつだと考えています。当面の大きな課題として、CO₂削減エネルギー対策プロジェクトを積極的に推進し、2030年度に30%削減（2019年度比）の目標に向けた取り組みを進めていきます。これを全社で挑戦することによって、当社製品・事業の付加価値の向上にもつながると考えています。

※ KPI：重要業績評価指標

付加価値を提供し続けることで社会とともに成長する会社でありたい

私たちは、2022年4月、サステナビリティ推進委員会を設置、本格的な活動を開始しました。サステナビリティ担当を各事業部に配置、月1回のプロジェクト会議を開催し、担当者がテーマを事業部に持ち帰ることで、サステナビリティ経営の全社浸透を図っていきます。担当者には若い社員が多く、ESGにも理解が深いため、その柔軟な発想と対応力に期待を寄せています。また、私たちは、人材こそ財産であるという考えのもと、今後のありたい姿のひとつとして、社員の豊かな暮らしの実現を目指していきます。サステナビリティ経営を進めていく中で、社員と会社がともに成長し、社員やその家族が自慢できる会社でありたい。そして、様々な活動を通じて地域社会にも貢献し、付加価値を提供し続けることで社会とともに成長する会社でありたいと考えています。

今後もステークホルダーの皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。